

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801727		
法人名	メディカル・ケア・サービス九州 株式会社		
事業所名	愛の家 グループホーム 笠松 (山笠ユニット・どんたくユニット)		
所在地	〒812-0067 福岡県福岡市東区笠松新町3番3号	092-626-8030	
自己評価作成日	平成25年02月15日	評価結果確定日	平成25年03月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の質の向上に対する研修の強化、利用者様1人1人にあった支援のあり方を職員全員で共有しケアプランに反映させている事。
又、四季にちなんだ行事の実施と家族との交流を行っている。
広報委員を置き毎月必ず広報紙を発行している。
「看護師とDr」「介護職員と看護師」の連携が取れており医療面からの支援も細かく行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「愛の家グループホーム 笠松」は、商業ビルや高層住宅の周辺に位置し、木造平屋建て、2ユニットの事業所である。法人理念と、職員が3カ月毎に作成した目標を掲げ、利用者の目線に立って、自由でのびのびとした介護サービスを実践し、一日一日を大切に、生きがいのある暮らしに取り組んでいる。ホームの地域交流スペースは、地区の会議や、勉強会、子育て支援等、地域の方が集う場所として活用され、子ども110番やAED設置のポスターが貼られ、いつでも対応出来る体制で、地域貢献が始まっている。利用者は、職員が愛情込めて作った食事を沢山食べ、生活リハビリに取り組み、24時間往診可能な提携医と、看護師と介護職員のチーム介護で、医療連携が取られ、充実した健康管理体制が確立され、利用者や家族から、深い信頼を得ているグループホームである。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 25年03月22日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人独自の運営理念があり、職員全員がクレドを携帯し、朝礼等で唱和し常に共有している。	職員は、法人理念を毎朝唱和し、理解して、利用者一人ひとりの、目線に立って介護サービスの提供に取り組んでいる。また、職員心得(クレド)を携帯し、ユニット毎に具体的なチーム目標を掲げ、3ヶ月毎に振り返り、利用者が「普通の生活を当たり前」に送れるよう支援している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	子供110番を引き受けたり、AED設置の施設として紹介をしているとともに、集会場を地域のいろんな会議の場として提供をしている。	管理者は、年2回行なわれる校区の食事に参加し、地域の方との交流を深めている。町内会から杵と臼を借り、餅つきのコツを教わりながら、ホーム玄関前で餅つきを行った。また、子ども110番を受け、AEDの設置を周知し、地域交流スペースを自治会の会議や育児サークル等に開放し、開設8年目を迎え、地域との信頼関係が構築されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症の理解を広め、集会室を使って地域の人に発信を行なっている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を行なっている。御家族代表、地域の方、地域包括の方も参加の呼びかけを時行なっている。ホームの現況や行事の報告今後の取り組みなどについても意見交換を行っている。	町内会会長や家族会代表、民生委員、地域包括支援センター職員が出席し、参加者から質問や要望、情報等が出され、ホームからは現状や取り組み、課題等を報告し、有意義な意見交換の会議となっている。また、行事で職員が作るメニューの一品を試食してもらい感想を聞く等、会議の中身を工夫し、ホーム運営に活かす取り組みがある。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの訪問、外部ケアマネの見学などあり、事業所の実情やサービスを積極的に伝えている。	グループホーム協議会に参加し、行政職員と話す機会を作ったり、担当窓口と相談する等、行政と連携を図っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を理解してもらう等、少しずつ協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当初地域住民との約束から、玄関の施錠は行なっているが、職員全体で身体拘束に対する意識は持っている。研修やミーティングで職員の意識の向上を行なっている。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、内部、外部の研修会で学び、職員の意識付けを行っている。身体拘束が与える影響を理解した職員は、利用者が笑顔で楽しく暮らせるための介護サービスの提供を目指し、一丸となって、身体拘束廃止に向けた介護に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部はもとより外部の研修会などにも参加し虐待の防止に努めている。社内でも虐待の取り組みを強化しており、独自にマニュアルを作成し指導を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、研修内容をミーティング時に発表し、全職員に周知している。現在2名の入居者が成年後見人制度を利用している	現在2名の制度利用者がいて、そのやり取りの中から制度について理解を深める事が出来ている。資料やパンフレットを玄関入口に設置し、来訪者がいつでも手に取れるように配慮している。また、入居時に制度についての説明を行い、利用者や家族が、制度を必要とする時、活用のための支援と、関係機関への橋渡し等、いつでも対応できる体制がある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際は、利用契約書と重要事項説明書の読み合わせを行っている。理解、納得を図っていただけるように、不安や疑問点を尋ねて十分に説明を行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回事業所全体による御家族アンケートを実施し意見や要望を取り入れている。意見箱を設置したり、御家族の訪問時に話しやすい雰囲気作りを行なっている。また頂いたご意見や要望は運営に反映するように取り組んでいる。	敬老会、クリスマス会、餅つき等、行事を兼ねた家族会を開催し、年に1回家族アンケートを実施して、利用者や家族の要望を聴き取っている。面会時に近況報告を行い、「気づいた事はありますか」と声をかけ、聴き取りを行っている。また、ホーム便りの作成や意見箱を設置する等、家族との関係を重要視し、コミュニケーションを取るよう努めている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングやフロアミーティングを定期的に行ない、意見や提案を運営に反映できるように努めている。又、職員と充分コミュニケーションをとるよう心がけ小さな意見や提案も拾えるよう努力している。	2ヶ月毎の全体会議と、毎月行われるフロアミーティング、カンファレンス等、職員が一同に意見交換を行なう機会を多く設けている。会議では活発な討議が行われ、職員の意見が十分に反映出来るよう努力している。また、管理者は職員一人ひとりとコミュニケーションを図り、職員間の連携や協力体制の確立に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	独自の職員評価基準を設けており、その評価に沿って昇給や表彰などを行ない、向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別を問わずに採用し、高齢者に対する思い等を考慮している。採用後は長所や経験を活かせるように配慮している。	園芸、料理、掲示物製作、サックスやピアノの演奏等、職員の長所や特技、経験等を活かしながら、生き生きと勤務出来るよう努めている。また、職員ロッカーの整備、休憩場所や時間の配慮、資格取得支援、受講料の補助等、職員が働き易い環境を整えている。職員採用にあたっては、高齢者に対する思いを重視し、年齢、性別、経験、資格による制限は行っていない。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発運動の研修に参加し、ミーティング等で伝達している。	管理者が行政の研修に参加し、ミーティングの中で伝達研修を行ったり、法人本部からの通達や資料を閲覧する等、人権についての理解を深めている。障害を持った利用者家族へのケアを通じて、日常的にも人権を学び、利用者のその人らしさを支え、尊厳やプライドを傷つけない支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のパンフレットや書籍を置き自由に閲覧できるようにしている。また研修希望者には勤務調整し参加できるようにしている。外部研修に参加した職員にはレポートを提出してもらい感想や目標意識を持ってもらう。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に入会しており、研修や会議等に参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学が可能であれば御本人にもホームを見学していただき、入院中やご自宅であれば依頼者に許可を得て訪問し、話をすることで本人の安心を確保するための関係作りに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話を通じて要望等を理解している。必要であれば何度も面談をし可能な限り対応をしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族のお話を伺い必要なサービスを一緒に考え状況に応じては、他の様々なサービスを紹介している。また豊富な知識を活かし様々な方面へのマネージメントを行なっている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の尊厳を前提に、人生で培われた力を発揮していただくことで職員と入居者様が共に支えあう関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会を御家族様と本人様含めて一緒にお祝いしたり、様々な行事等で職員と一緒に役割を持って参加していただく等、共に本人を支えていく関係作りを築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>行事と一緒に食事を食べていただいたり、臨時の面会にも家族や後見人の了承を得た上で面会できるように支援している。長年通われている美容院に定期的に出かけていただいている。</p>	<p>近所の方や友人、知人の面会があり、夜間や早朝の面会にも出来るだけ対応している。「此処にこれを買に行きたい」「これを見に行きたい」と言った、利用者の気持ちを優先し、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。また、ホームで親しくなった利用者同士の関係や、職員と利用者の信頼関係等、新しい出会いや馴染みの関係作りに取り組んでいる。</p>	
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う利用者同士の座席配置にし、会話や助け合いができる環境作りに配慮している。必要に応じて職員が介入している。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も家族からの電話や訪問があったり、はがきを送るなどの交流など関係が保たれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族からの情報をもとに、利用者の表情や言動等でご希望やご意向を把握し、カンファレンスを行ない、ケアプランに反映している。</p>	<p>管理者が交代し、利用者や家族との信頼関係を深めるため、担当職員に、改めて利用者としてしっかり話をし、気持ちを聴き取る事を求め、アセスメントを作り直し、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、認知症ケアの重要な点として、利用者が「何をしたいのか」を、感じ取る力を付ける事が、大事だと日頃から職員に伝え、知り得た情報は全員で共有し、ケア活動に活かしている。</p>	
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に関わっていたケアマネージャーやサービス提供者、本人や家族から基本情報、バックグラウンド、アセスメント等で馴染みの暮らし方を把握している。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>食事、排泄、睡眠。水分量などチェック表に記載し、また、毎日の日誌や個人記録申し送りなどで、全員が把握できるようにしている。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の希望、要望を尊重しながら、ユニット会議や、ケアカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。</p>	<p>利用者や家族の希望や意見を聴き、主治医、看護師、介護職員と話し合い、しっかり連携を取りながら、利用者にとって何が一番必要なのかを考えて、介護計画を定期的作成している。また、利用者の状態に変化があった場合は、家族や関係者と連携を取り、利用者本位の現状に即した介護計画を、その都度作成している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画のモニタリング表を作成しそれにチェック表を作成しそれにチェックを入れ日誌や介護記録に毎日の言動や様子、気づきを記入している。又排泄、水分チェック表などを作成し健康をチェックしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携を取り、健康管理を行なっている。入院時も定期的に訪問し状態を把握して退院後の生活の準備している。通院も御家族の状況に応じて個別に対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加緊急時の警察との連携、消防、町内会、民生委員などと協力しながら支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や通院介助、情報の伝達方法について話あっている。他科受診の際は、かかりつけ医への情報提供を行っている。協力医の訪問診療が週に1回あり適切な医療を受けられる体制がある。	利用者や家族の希望を聴きながら、かかりつけ医の受診支援をしている。協力医による往診は、ユニット別に毎週交互に行われ、看護師との24時間連携と合わせ、安心した医療体制が確立されている。また、眼科、皮膚科等の受診についても、情報提供を行いながら支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理や緊急時に対応している。介護職員は個人記録や気づきから看護職員に相談を行ない適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療連携相談室との電話連絡や、定期的に訪問し、御本人の状態を把握し、病院と情報交換を行いながら退院後の生活に備えている。退院前のカンファレンスにも参加している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた医療体制指針の同意書を作成し、事業所側が対応できるケアについて説明を行っている。又重度化した場合にはDrを交え今後の事について御家族としっかり話し合いをし状況に応じて常に連携をしている。	家族とコミュニケーションを取りながら、その時その時の状況に応じて話をしている。利用者の重度化が進む中、「看取り介護にかかる指針」を用意し、ホームで出来る事、出来ない事を説明し、利用者や家族に理解を得ている。今後の対応を家族と話し合い、方針を確認し、関係者で共有して、利用者の重度化に向けた支援体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え	緊急の場合の意識を持ち利用者の急変や事故発生に備えてマニュアルを作成している。看護師や医療機関と連携をとり、社内研修を定期的におこなっている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署や、自治会長立会いの下に避難訓練を行っている。また、近隣の方に協力を依頼できるように環境を整備している。	3ヶ月に1回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、年1回は消防署の参加を得ている。訓練では、火元を想定し、どこで出火したらどの方向に逃げればいいのかを繰り返し確認している。非常災害時に備え、飲料水、非常食の用意はあるが、利用者の個人情報や病歴、薬の情報等をまとめ、非常用持ち出し袋と一緒に持ち出す方法等を検討している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーや誇りに配慮した言葉かけや対応を行なっている。	利用者のプライバシーや羞恥心に配慮し、常に尊厳を持った言葉遣いに心がけている。また、色々な情報をもとに、利用者の出身地の方言を使う等、その人に合った声かけを行っている。職員の守秘義務の徹底を図り、個人情報の記録は、ロッカーで見えないように保管されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表せやすいような声かけを行ない、できるだけ自己決定ができるように配慮している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体で物事を考えるように意識している。利用者とコミュニケーションをしっかりと希望にそえるように心掛けている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みに合わせた支援を行なっている。一緒に洋服を選んだり、行事や外出の際は化粧を手伝ったりしている。美容は訪問美容を利用されている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や方付けを行ない、同じ食事を同じテーブルで食べている。好きなメニューを聞き取り可能な限り反映している。また楽しい雰囲気となるよう音楽を鳴らしたり、会話や介助等に配慮している。	利用者の嗜好を聴き、出来るだけメニューに反映させている。また、畑で採れた季節の野菜を使い、調理上手な職員の手料理が提供され、職員も同席し、一緒に同じ食事を食べている。今年は「おせち料理」を利用者と一緒に作り、買い物、下拵え等に参加してもらった。「お餅が食べたい」との利用者の声に応え、ホームで初めて餅つきを行う等、利用者の「食べたい」気持ちを大切に支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量を事業所独自のチェック表にして記録している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行っている。1人1人の口腔状態や能力に併せた支援を行なっている。また定期的に義歯や歯ブラシの消毒洗浄を行なっている。必要に応じて訪問歯科診療の支援をしている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	事業所独自の排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握につとめ、トイレでの排泄支援を行なっている。	オムツやパットに頼るのは好ましくないと言う職員の思いから、排泄チェック表で排泄の間隔を把握し、細やかに声かけや誘導を行い、排泄の自立支援に繋がっている。また、車椅子の方も出来るだけトイレに座って頂き、トイレでの排泄を基本として、夜間はポータブルトイレを使用する等、利用者一人ひとりに対応した排泄の支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーション、散歩等の個々の状態に合わせた支援をしている。食物繊維の多い食事の提供や水分チェック表を活用し水分摂取に配慮している。又状況に応じては医師や看護師に相談し下剤の調整を行なっている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望にあわせて支援を行なっている。拒否がある場合は声かけの工夫や職員の交代をしたり、時間やタイミングをずらして支援している。	入浴に関しては、同性介助を心がけている。入浴は利用者の希望を優先し、2日に1回、3日に1回位のペースで行なっている。また、利用者のその日の気分や、健康状態を見ながら柔軟に対応し、無理強いをしない楽しい入浴の支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの環境を保てるような1人1人の支援を心掛けている。日中の活動性を高め、夜間に安眠していただけるように支援している。日中でも御本人の希望や様子によって休息できるよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握できるよう、薬剤師より目的や副作用等を薬状に残している。病状に変化があった場合にはその都度看護師に確認している。内服薬が変更になった場合などは様子観察をしっかりと行ない情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることや得意な事の把握に努め、1人1人の役割や楽しみ事等を支援している。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	天候や利用者の状態に配慮しながら、散歩やドライブ、買い物、外食など戸外に出かけられるよう支援している。	菜園での野菜作り、プランターの花の手入れ等、外気に触れる機会に配慮し、また、散歩コースにある、お地蔵さんにお賽銭を上げるのを楽しみにしている利用者もいる。テラスでのバーベキュー、ドライブ、買い物や外食等、日常的に戸外へ出る事を楽しんでいる。また、ヤフードームでの野球観戦やオーケストラ演奏の鑑賞等、普段行けない場所への支援も行っている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにおいてお小遣いはお預りしており、買い物に行った際場合によってはレジにて利用者に渡し支払いをお願いしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合や、電話が掛かってきた際は、話しやすい場所で話していただく支援をしている。手紙のやり取りは少ないが、届いた手紙については、本人から希望があれば読み上げさせていたいただいている。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には写真や絵画等を飾り、家庭的な雰囲気心を掛けている。光の強さはカーテンで調節し、音の大きさや湿度にも配慮している。誕生日会や外出時の写真も掲示している。	広いリビングには豪華な7段のお雛様が飾られ、季節の掲示物や利用者の笑顔の写真が飾られ、明るく楽しい雰囲気である。庭や畑に続くテラスには、利用者が育てている花の鉢が置かれ、土いじりを好む利用者が自由に行き来している。庭では梅、桜、藤が季節毎に花を咲かせ、居ながらにして花見が出来る、開放感溢れる共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル席など気の合う利用者同士でくつろげるよう心がけ、ご案内もしている。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には、担当職員の写真が貼られ、居室内には筆筒、鏡台、仏壇等、利用者の使い慣れたものがある。又写真や思い出の品々が置かれ利用者の個性が感じられる居室となっている。	表札が掲げられた居室の入口には、担当職員の写真を掲示している。居室は広く、家族の協力で、大きな仏壇や筆筒、利用者の大切な物、家族の写真等たくさん持ち込んでもらい、自宅の自室のような雰囲気である。まさに「此処に住んでいる」という佇まいで、たくさんの馴染みの物に囲まれて座る、幸せそうな利用者の顔が印象的であった。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを把握し、廊下やトイレ、浴室などに手すりが付いており、利用者のできることを最大限活かして生活していただいている。また居室入り口の表札をかけたトイレ等は見やすい様に表示している。		